

大和國  
磐井

攝津國  
入梅の井

六石星底扇泉鐵甘瓶棟相  
角井月脫井井井露井立模  
井夜井井井國

伊勢國  
御井

〔日本書紀十四雄略〕是月○安康天皇御馬皇子以曾善三輪君身狹故思欲遣慮而往不意道逢邀軍於三輪磐井側逆戰不久被捉臨刑指井而詛曰此水者百姓唯得飲焉王者獨不能飲矣

攝州矢田郡丹生山田庄原野村栗花落理左衛門第宅に井あり、渡り三尺深さ二尺、常に水なし、梅雨に入てかならず涌出す、その水口の數を以、入梅の日を定む、終に姓と成りて、栗花落理左衛門といふ、五月栗の花の落る頃は、入梅の時節なるが故に、栗花落と書り、○下略

〔神宮雜例集〕第三御井社事

一始事略○中

又云○本紀其後豐受神宮乃坤方乃之世乃御膳調備料爾移置給水也

本紀云其水大旱魃年母不涸其下二丈許下天底有水田其田和旱魃損止毛此御井乃水和專不干

物忌父三人科上祓祓清被令供奉

〔新編鎌倉志 四〕鐵井 附 鐵觀音 鎌倉十井

鐵井ハ雪下西南ノ路傍ニアリ、里人云、此井ヨリ鐵觀音ヲ掘出シタル故ニ名クト略中  
鎌倉ニ十井アリ、棟立井、瓶井、甘露井、鐵井、泉井、扇井、底脫井、星月夜井、石井、六角井、此ヲ鎌倉ノ十井ト云フ中

泉谷 附 泉井